

## はじめに

今、日本社会は、少子高齢化やグローバル化の進展、慢性的な国内需要不足など、経験したことの無い大きな課題に直面しています。その中で、子どもたちは未踏の時代を一人の自立した人間として、周囲の人たちと協力して、たくましく生き抜いていかなければなりません。

そのような中、伊丹市では、「みんなの夢 まちの魅力 ともにつくる『伊丹』」の実現に向けて、「子どもの生きる力を育む魅力ある学校教育」を目標に教育行政を推進しております。当センターでは、子どもたちに生きる力を育む「学び続ける教員像」をめざし、現職教員の資質向上のため、様々な研修を実施してまいりました。近年の若手教員の増加、ベテラン教員の大量退職に伴い、管理職やミドルリーダー、若手教員の育成は喫緊の課題となっており、魅力的な学校園運営に向けての組織マネジメントや授業研究、生徒指導など、教職員が研修していかなければならないことはたくさんあります。

そこで、平成27年度は、管理職対象のトップリーダー研修や中堅教員対象のミドルリーダー養成研修を体系的・実践的な研修として改善を図りました。また、授業力向上（カリキュラム）支援センターでは、若手教員対象のカリセンミニ講座や臨時講師等対象セミナー及び教職員の自主的な研修の実施により、延べ1,625人（2月末現在）の利用がありました。さらに、学習意欲を高め、わかる授業づくりのため、電子黒板、実物投影機等の活用を推進した結果、ICTを活用した授業時数が、1校あたり2,468時間（2月末現在）となるなど、教職員の資質向上に努めてまいりました。

山本五十六の有名な言葉に、「やってみせて、言って聞かせて、やらせてみて、ほめてやらねば人は動かじ。」という人材育成につながる有名な言葉があります。若手教員が増加する中、まさに、今がその時であると痛感しています。当センターは、今後も不易な部分とともに、時代の変化に対応し、学び続ける教職員の育成に努めてまいりたいと考えています。どうぞ、研究に一層のご支援ご協力をお願いいたします。

さて、このたび総合教育センターにおける1年間の事業の取り組みを集約し、第56報「研究集録」として発刊する運びとなりました。皆さまにおかれましては、本集録をご一読いただければ幸甚に存じます。結びにあたりまして、本集録の作成に多大なご協力をいただきました皆さまに心から感謝申し上げます。

平成28年3月

伊丹市立総合教育センター  
所長 後藤 猛虎